

話題の



『このミステリーがすごい!』大賞受賞作家
城山 真一 氏

デビュー5周年で連続2作

七尾市出身、金沢市在住の小説家
城山真一氏(47)はデビュー5周年

ト小説を著し、文壇に評価されファ
ンをつかむ。

を迎え、昨年12月9日、刑務所を舞
台にした『看守の流儀』(宝島社)を
刊行したのに続き、今年1月23日、
『相続レストラン』(角川文庫)を発売
した。両作とも石川を舞台にストー
リーが展開しており、『看守の流儀』
が県内主要書店で発売から4週連続
1位となり、地方発の本格的な社会
派ミステリー作家として注目されて
いる。

七尾高2年の時、高校生向けの小
説コンクールに応募、作家赤川次郎
氏の審査で受賞し、「当時はまだ強い
思いを抱いてなかった」というが、
小説家が視野に入る。30代で内灘町
の生涯学習・文芸スクールに通い、
講師の一人、月刊「おあしす」の創
刊者で五木寛之氏と親交のある金子
建樹氏からプロになることを勧めら
れ、本格的に作家を目指す。

2015年、『国選ペテン師 千
住庸介』(泰文堂)で作家デビュー、

「ミステリー作家を目指したわけ
ではなく、読者の興味をひくストー
リーテラー(語り部)になりたい。

翌16年発売の『ブ
ラック・ヴィーナ
ス 投資の女神』
(宝島社)で第14回

事件だけでなく人を如何に書くか、
市井の人たちの悩みや苦しみを物語
に映し込んでいくことを心がけてい
る」と基本姿勢を語る。

『このミステリー
がすごい!』大賞
を受賞、17年には
『二礼茜の特命
仕掛ける』(同)で
も株取引の天才女
性を主人公にした
エンターテイメン

ちなみに『相続レストラン』は、
金沢の東山を舞台に元税理士のウエ
イターが、近年関心が高い相続トラ
ブルを華麗に解決していく筋立て。
新幹線効果により、金沢が「全国区」
になり、地方在住のハンディーがな
くなってきたのも追い風だ。(お)

